

平成31年3月27日

豊川市議会議長 野本 逸郎 様

産業建設委員長 柴田 輝明

産業建設委員会所管事務調査報告書

本委員会の所管事務についての調査結果を報告いたします。

1 調査項目

(1) ばらを活かしたまちづくりについて

本市においては、JAひまわり農協のバラ部会が、栽培品種約150品種、年間で1,600万本の生産量日本一のブランドを全国に売り出し、この高い品質・豊富な品揃えを多くの方々に周知していただくには、どのような政策があるのか、先進事例の鹿屋市の「ばらを活かしたまちづくり」の調査を行いました。

(2) 商店街の活性化について

全国の自治体において、商店街の賑わいの創出については課題となっており、豊川市においても様々な取り組みが行われているが、全国的に先進的な取り組みで中心市街地の商店街に新規店舗・IT企業の誘致に成功している日南市油津商店街の調査を行いました。

(3) 中心市街地活性化プロジェクトについて

本市の中心市街地の活性化に向けて、先進都市の宮崎市の取り組みの調査を行いました。

2 調査内容

別紙<調査経過>のとおり、先進都市の視察内容を踏まえて委員間での意見交換を行いました。

3 調査結果

(1) ばらを活かしたまちづくりについて

① 本市の状況

本市においては、平成29年度には生産農家37名で約18haの栽培面となっており、バラの出荷量、作付面積が日本一となっています。このバラを活かした本市のシティプロモーションに取り組むため、商工会議所とひまわり農協が中心となって「とよかわフラワープロジェクト」組織を設置し、イベントや周知活動に取り組んでいます。この活動の中で、対外的にPR活動をするため、6（ろく）と2（に➡ツー）でローズの語呂合わせで、市政記念日の翌日6月2日を「とよかわバラの日」としています。豊川市観光協会では「とよかわバラ」を優れた地域資源として「とよかわブランド」認定し、産業振興、観光振興に活用しています。農務課では、豊川産農産物のブランド化や付加価値を高めるため、9月議会において補正予算をお願いし、「とよかわバラ」のPR動画を作成し、3月からYouTube掲載。また、イオンシネマ豊川にて3月中CM上映して、「とよかわバラ」のPRに努めています。市内外のイベントにおいて「とよかわバラ」の販売を行うなどPRを行なっている。

② 先進都市の状況（鹿児島県鹿屋市）

ア. ばら園の設置・経緯

県内他市で相次いで公園整備計画が発表され、鹿屋市でも観光施設として特色ある公園づくりが急務となり、他市で事例のない「ばら」で難しいが挑戦をしたとのことです。

イ. ばら園の概要

霧島が丘公園内のばら園として、平成5年に日本最大のばら園としてオープンし、当初は500種6,300株のばらを栽培し、現在は1,500種35,000株となっている。

ウ. 公園の管理状況

ばら園の業務は行政とNPO法人で分担し、鹿屋市が植栽管理・温室管理・管理事務所を担当で総勢46名、NPO法人「ローズリングかのや」が入園受付、切花温室の受付などを職員・パート・アルバイトで24名が従事している。また、「ばら祭り」などソフト事業担当として、鹿屋市の都市政策課職員4名と嘱託職員1名が従事している。

エ. 入場者数について

開園当初の平成18年は15万7,155人で平成22年は口蹄疫の被害が拡大し、7万6,506人と観光客減少、平成28年は熊本地震で7万9,318人と観光客減少、平成29年には、9万1,105人とな

っている。月別では、5月が最も多く、ばらの開花時期で年間来場者数の4分の1で、7～8月・1～2月などは最も入園者が少ない。

オ. ばらを活かしたまちづくり計画

平成26年6月に策定し、平成30年5月改訂、策定主体として、ばらを活かしたまちづくり計画推進委員会を（商工会議所・観光協会・まちづくり鹿屋・旅館業組合など10名）構成されて、「鹿屋市」、「ばらを活かしたまちづくり計画推進委員会」、「ローズリングかのや」の3者が中心となって相互に連携し、市民や企業、学校などと協力して事業を推進している。また、ばら祭り、植栽教室、薔薇の植栽を行なう学校・企業・町内会を支援して、フォトコンテスト、お土産品などの開発支援もしている。

カ. 今後の課題

ばら園へのアクセスが不便で、県道の拡張などが必要であり、また、8haのばら園は高齢者などには負担となり、コンパクトに整備し、インパクトを与えるような植栽が必要であるとのこと。

③ 総評

鹿屋市の人口10万人で、大隅半島の中核となる都市である一方、かつて存在していた鉄道は廃線となり、バスによる交通が主となっている。そのような状況の中で、観光の目玉となるように「ばら園」が開設され、入園者数約10万人を呼び込んでいる。豊川市においては豊川稲荷という観光スポットを持ち、その観光客数も鹿屋市以上の数となっている。しかし、月別の観光客数の変動から、豊川市では一月に集中し、鹿屋市では五月に集中するという共通の課題を持っていた。鹿屋市については、秋の「ばら祭り」にライトアップを行うなど努力をしていた。

市民との協同、まちづくりという観点からは鹿屋市は、直接的に「ばら」と関係性がある市ではなかったが、平成5年に行政のリーダーシップで「ばら園」を整備し、「ばらのまち鹿屋」の第一歩を踏み出している。全国的な知名度も上昇してから「ばらを活かしたまちづくり計画」を策定し、まち全体を巻き込んだの取り組みとなっており、道路の脇への植栽や植栽教室（家庭菜園のばらを増やす）など、ばら園の外でも楽しめる仕掛けをつくっているのはぜひ参考にしたい。企業や学校にも協力してもらおう事で、より一層まち全体のブランディングになっている。

(2) 商店街の活性化について

① 本市の状況

本市の商店街の数も平成13年度13地区にあったが、全国的な状況と同様、大型店の進出やモータリゼーションの進展、後継者難などにより、解散を余儀なくされた地区もあり、現在では5地区のみとなっています。残っている地区も豊川稲荷に近い地区がほとんどです。(豊川商店街・豊川門前通商店街・開運通商店街・豊川市中央商店街・本町商店街)

本市には、日本三大稲荷の一つで初詣客を中心に多くの参拝客(約500万人)がある豊川稲荷があり、門前には複数の商店街があります。近年の観光産業の多様化により、参拝客も団体旅行から個人旅行に代わってきており、商店街の賑わいも初詣客を迎える時期やイベント開催時は大変賑わいますが、普段はやや苦戦をしている状況が伺えます。

一方で豊川稲荷に近接している地区に商店街(本町商店街)が復活したところもあり、新たに飲食等の店舗が開業し、飲み歩きイベントの開催や軽トラ市の開催など商店街の賑わいづくりに頑張っている商店街も出てきています。商工観光課では、やる気満々商店街等事業費補助制度や商業団体等事業費補助制度などにより商店街等の活動を支援している。

② 先進都市の状況(宮崎県日南市)

ア. 活性化の必要性和経緯

かつて宮崎県南地区最大の市街地であった油津商店街は、空き店舗や空き地の増加、歩行者通行量や小売販売額の減少などの衰退が見られ、また、隣市などへの買い物客の流出など、日南市の玄関口としての魅力の形成やアクセスが課題となっていた。現在、日南市中心市街地活性化基本計画(2012年11月~)に基づき、平成25年4月現市長の崎田恭平氏(当時日本で最も若い市長)が就任してテナントミックスサポートマネージャーを全国公募し、委託金額は月額90万円で、333人の応募があり、民間人の木藤氏が就任して商店街の再生、市の商業活性化に向けて取り組んでいる。

イ. 中心市街地活性化基本計画と計画事業及び推進体制

行政主体の多世代交流施設と民間主体の屋台村の建設と運営を、株式会社油津応援団が一体的に行う構想を掲げ、国の補助を受け、2015年11~12月に多世代交流モール(油津 Yotten、あぶらつ食堂・4店舗、ABRATSU GARDEN・6店舗)が開業した。これらは、長年利活用に苦慮していたスーパー跡の大きな空き店舗を地元の杉を用いてリノベーションし、広い空き地にコンテナを用いた店舗を並べ、デザイン性の高い空間をつくることで出店意向を集め、多世代のお客様が集い、交流できる場所となっている。

ウ. 今後の課題と今後の期待

4 ヶ年で20店舗という数値目標が取り沙汰されていますが、決してそこがゴールではなく、新規出店やイベントの復活も進んではいますが、それが最終目標ではなく、新旧の店主がどのようにコミュニティをつくり、まちを運営していくのかがこれからの大きな課題であり、今はその基礎が築かれたという段階です。様々な市民のかかわりによって再生し、「もう外部人材の力に頼らなくても大丈夫」と地元住民が自走し始めることが目標である。

③ 総評

油津商店街では活性化の目標が、昔と同じ商店街を再生するのではなく、商店街に新たに現在必要とされている事業所、交流施設などを設け多世代間のコミュニティが生まれれば、おのずと人が集まり、そこには様々な今の時代に合った新たな商店街が形成され、そこから商店街・まちが活性化されていくと感じられる。賑わっていた昔を取り戻すのではなく地域の人たちが必要としている、仕事・商店・交流施設等をしっかり把握し、地域の人々の力でそれらを作り上げ新しい形の商店街というコミュニティを形成する見本となりました。

(3) 中心市街地活性化プロジェクトについて

① 本市の状況

本市の中心市街地活性化の取り組みとして、市を代表する観光資源で日本三大稲荷の一つである豊川稲荷の位置する「豊川地区」の目標として「一大観光地として往年の賑わいの復興」そして官公庁が多く立地しまず「諏訪地区」の目標として、「商業、行政の中心としての成熟」を揚げ、平成11年に豊川市中心市街地商業等活性化基本計画を策定し、各種施策の展開をしてきたが、規制緩和に伴う郊外での大型商業ビルの開店ラッシュなどにより、活性化がなかなか思うように進まない状況にある。

第6次総合計画において、中心市街地は、「中心拠点」位置付けられ、行政機関や公共施設、商業などの都市機能の集積する地区とされており、特に、諏訪地区は、地理的にも本市の中心に位置していることから、市民の利便性向上のため、さらなる都市機能の集積が必要となっている。

本市では、市街地再開発事業により、平成13年にオープンしたプリオⅡビルに「市民プラザ」を整備し、市民の交流拠点としている。また、プリオビルにおいては、窓口センター、子育て支援センター、催事場、プリオ生涯学習会館、とよかわボランティア市民活動センタープリオなど、市民

の皆さんが集う公共施設の整備を行っており、賑わいの創出に努めている。

② 先進都市の状況（宮崎県宮崎市）

ア. 経緯と目的

モータリゼーションの進展や郊外開発等により市街地が拡散し、中心市街地の空洞化が進み、市街地活性化のため、郊外の開発抑制と都市機能の集約車優先から人優先のまちづくりとして、にぎわいの創出・コミュニティの再生を目指し、中心市街地活性化の核施設・文化芸術によるコミュニティの再生拠点として、みやざきアートセンターを設立した。

イ. 概要

みやざきアートセンターは、基本計画によって平成21年10月1日に誕生した文化施設です。市民が気軽に利用でき、市民活動の場として、会議室・美術品の展示・コンサートなどができる施設で、「まちなか」の活動拠点として宮崎市中心市街地活性化のシンボルを目指す施設です。

ウ. 運営

指定管理で、指定管理者みやざき文化村（特定非営利活動法人宮崎文化本舗＋特定非営利活動法人みやざき子ども文化センター）が行っています。

エ. 現状

施設の運営は、指定管理者みやざき文化村が行っており、多くの方が日常的に文化・芸術に親しんで頂ける、展示・イベントを企画して、好評であり、来館者数は年平均136,300人と年間目標11万人を超えている状況です。

③ 総評

宮崎市では、平成19年5月28日に内閣総理大臣認定の「宮崎市中心市街地活性化基本計画」を策定し、計画に位置づけした事業を実施してきた。その中で市街地開発事業として従前の宅地を統合し建物を除去して、共同化された建物とその敷地の整備をし「みやざきアートセンター」が誕生した。1・2階は地元銀行やテナントが入り、3階～6階はアートセンターとしての展示スペースや小規模ホールなどを備えており、市民が気楽に利用できる「まちなか」の文化芸術活動拠点として、宮崎市中心市街地活性化のランドマークを担っている施設であった。指定管理者はNPO法人2社が共同で担い様々な工夫がなされていると感じた。中心市街地全体で公園化も図られておりさらには人の流れが作られて成功事例である。

4 産業建設委員会からの提言

(1) ばらを活かしたまちづくりについて

今回、かのやばら園を視察して、地域に根差していたわけでもない、薔薇を特色ある公園づくりのために「ばら」を選んだとのことで、豊川市では生産量日本一のブランドを全国に売り出し、このバラを活かした「とよかわフラワープロジェクト」組織を設置し、イベントや周知活動に取り組んでおられます。

本市には、年間来場者40万人以上の方が訪れる、赤塚山公園がありますが、その敷地内に150種類のばらの温室を設置して、「とよかわバラ」のPR・公園の集客増につながる施策として、本市も取り組まればいかがでしょうか。

(2) 商店街の活性化について

日南市油津商店街に伺った際、崎田恭平市長自ら、冒頭の挨拶、概略説明をして頂き、さすが当時日本で一番若い市長で商店街活性化の取組みに本市対しての意気込みを感じ、また、民間人の木藤氏がテナントミックスサポートマネージャーとして就任、木藤氏は家族とともに他市から、転入し、この油津町民として活動に取り組んできて、昔からいる商店街の人たちも、巻き込んでいる。本市においても、勢いのあるトップセールスを期待したい。

(3) 中心市街地活性化プロジェクトについて

宮崎市の中心市街地活性化プロジェクト「みやざきアートセンター」を是非参考にして頂き、本市においては諏訪地区にある、プリオビルをさらなる都市機能の集積を進めて頂きたい。

別紙

<調査経過>

平成30年6月22日（金）

打ち合わせ会（視察項目・日程について委員長一任）

日程：8月1日（水）～8月3日（金）

項目

- ・ばらを活かしたまちづくり・・・・・・・・・・鹿児島県鹿屋市
- ・「商店街の活性化」・・・・・・・・・・宮崎県日南市
- ・「中心市街地活性化プロジェクト」・・・・・・・・宮崎県宮崎市に決定

平成30年8月1日（水）～8月3日（金）

視察の実施

- 1日 鹿児島県鹿屋・ばらを活かしたまちづくりについて
鹿屋市霧島が丘公園内のばら園にて
- 2日 宮崎県宮崎市・商店街の活性化について
日南市油津商店街にて
- 3日 宮崎県宮崎市 中心市街地活性化プロジェクトについて
宮崎市 みやざきアートセンターにて

平成31年3月8日（金）

打ち合わせ会 「産業建設委員会所管事務調査報告書について意見交換」